

■令和５年度第１回高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日 時：令和５年７月１４日（金） 19:00～21:00

場 所：会津会津美里町役場 ２階 大会議室

出席者：16名／18名

事務局：6名

1. 開会

（１）事務局紹介

（事務局：課長）

～事務局（産業振興課職員５名）紹介～

（事務局：課長）

町の商工会も出席予定だったが、事情により今回は欠席。

私の右側に居る方は、地域力創造アドバイザーである。

令和５年度において、町が地域活性化を図るための取り組みに対し専門家からの指導や助言をいただくために、総務省の制度を活用してお越しいただいている。

このたびの高田地域まちなか賑わい創出協議会や、先日開催した旧高田温泉あやめの湯の利活用検討委員会等にも参加していただき、アドバイスを受けている。

今後も出席いただきながら、この協議会を進めて行く。

（アドバイザー）

アドバイザーの立場で入らせていただくが、まだまだ地域のことはわからないので色々教えていただきたい。

（２）委嘱状交付

2. 町長挨拶

3. 委員自己紹介

4. 委員長及び副委員長の選出

5. 協議事項

① 委員の役割、スケジュール

（事務局より資料「協議事項①」により説明）

② 現状の把握、人口推移など

（事務局より資料「協議事項②」により説明）

③ そもそも「賑わい」は必要か？

④ この地域に足りないもの

⑤ どうすれば、この地域に賑わいをもどせるか？にぎわいの種類、ねらう世代

質問（委員）

要するに、お金がちゃんと儲かる町になっているという賑わいか。

回答（事務局）

お金も賑わいの一つ。人を集めるのも賑わいの一つ。お祭りのように文化的な活動という賑わいもある。

この町はどの賑わいを目指すかというのを確認しておきたい。

賑わいはいらぬという意見もあると思う。

意見（委員）

普段私が商店街に買い物に行くかということ、買い物に行くというよりは店主に会いに行く。人に会いに行くというイメージが高田の商店街はある。

もともと車がなかった時代に歩いていた昔からの道なので、今、車の動線がどうなっているかという調査はやったほうが良いと思う。実際に車でどこに行きやすいかなど。

高田の商店街は伊佐須美神社の近くにあるが、割と町民向けのお店が多い。昔、生活に必要な備品を買いに行ったりしたが、観光客が来ていたかというところとわからない。神社と商店街が切り離されてるイメージがあるが、もともと神社やお寺がたくさんあり、門前町の雰囲気を残している。坂下の国道 49 号線沿いや喜多方のような商人のまちではない。本郷は職人の町で商人のまちだが、高田が商人のまちかということと少し毛色が違う気がする。商工業メインで稼ぐのがこのエリアの人の質に合っているかということから考えたほうがよいと思う。

昔は全部まちの中で担えたが、今は車があり、会津若松市など広域圏内が生活圏である。そもそも外向きだったのか内向きだったのか、高田エリアの気質に合わないことをやっても難しい気がする。賑わいは競争だと思うので、競争に向いてるかどうかなど。

会津美里町の賑わいも、エリアで違う。

意見（委員）

福祉計画策定ワークショップを新鶴・高田・本郷で地区別に実施したが、新鶴と本郷では全く意見が違うし、高田も、山のほうと町のほうで全く違う。本郷は会津若松市のベッドタウンだという認識で、新鶴の人はガソリンを入れに行くのも大変だという生活に直結するような話。

高田では、山側是新鶴の考えに近いが、町側は本郷に近い考え。そういったところで、住む町にするのか、誰かに来てもらう町にするのかという方向性は明確にしておくべき。

公民館の跡地利用というところも含めて考えると、喜多方にあるような子どもが屋内で遊べるような子育ての施設を建てるなど。

質問（委員長）

賑わいは必要か。

意見（委員）

町はこのあと破綻していく。人がいなくなつて、2060 年には 8,000 人。そうなると人は住んでいないと駄目なので、必要なのではないか。

意見（委員）

本郷地区は会津若松市のベッドタウンだという意見があったが、今年の 3 月に会津信用金庫の門田支店がなくなった。門田地区の金融機関は、今は会津商工信組の門田支店が 1 店舗だけであ

る。近くに金融機関がない地区の方がどこに預金をするか調査したところ、本郷支店に集まってくる。そういうところから見ると、会津若松市のベッドタウンが本郷地区になっているのが現状だと思う。

高田地区は土地も有効にあり、農地も多いが、農地転用や色々な手段があると思う。空いている土地もたくさんあると思うので、人の賑わいというのが今後すごく大事になってくるのではないかと痛感している。

人がいなくなれば税金の収入も途絶え、町の予算が取れなければ町の動きも止まってしまう。

意見（委員長）

おそらくこの委員を依頼された方や応募した方は、賑わいを作っていこうという思いで参加されたと思っている。そういう意味では、現状の中で賑わいをどう作っていくかだと思う。

人がいないと何をやっても賑わいは創出できない。それが一番難しい話でどうするのかということだが、少しずつでも色々な分野の賑わいを繋げていくことかと思う。一つ一つではなく、大きく成功しようとするのではなく、繋げていく形をしていけば、それがある程度持続されるという思いがする。

意見（委員）

私も基本的には人がいないと賑わいはないと思う。

商店街が内向きなのか外向きなのかという話を聞き、まさしくそう思ったところもあった。

実際に高田の商店街に買い物に行くかと言えば行かないし、会津若松市に行ってしまう。昔は寿司屋も高田のまちなかにあり、祖父がそこで取ってくれた寿司を食べたが、今は会津若松市に行けば100円で安く食べられるので、どうしてもそういうふうになってしまうのかなと思う。

伝統行事や祭りがあっても、人がいなければなくなってしまう。人を確保するにはどうしたらいいかと言うと、若い世代を移住させることを考えれば、極端な話、補助金やお金である。

若い世代はお金がかかる。少子化問題も、お金がかかるから子どもを産まない、家を建てられない、それならいい補助金があるほうに行こうという、若い人はそういう考えになると思う。

例えば、家を一軒やるから家族でここに住んでくださいと言えば、おそらく若い人がたくさん来る。そうすれば、子どもも増え、小中学校も賑わい、子どもが活気付けば大人も笑顔になってくるという循環をしていくと思う。

意見（委員）

私は観光客と話をすることが多いが、伊佐須美神社に来て他に観るところがあるかと聞かれたときに、無いとしか言えない。商店街もお勧めではない。桜の季節やあやめ祭りのときは神社にものすごく人が来るが、そこから流れない。どうしたら商店街の道まで流れるかと考えたときに、「会津美里町っていいところだよ」と皆が言ってくれる。歩いていて気持ちがいいとか。雰囲気大事で、町並みが歩きたくなるまちだったら、そこに何もなくても人が歩いていくと思う。歩いていたら、そこに店があったらいいなとなり、そこで店を出してみたいという人も増えるのではないかなと思う。

意見（委員）

高田の商店街がほかの商店街と違うのは、後ろが家になっていること。住んでいる方がお店を

営んでいるので、そこが都会の商店街などとは違う点なので、その住人の方がどうかというのを知りたい。

高田の商店街周辺には小学校や中学校があり、子どもの帰り道になっている。私は子育て世代なので、商店街が子どもやお年寄りなど幅広い世代が交流できる場所になって欲しいと思う。

意見（委員長）

実際、昔の商店街は色々な役割を持っていたと思う。単なる賑わいだけではなくて、地域づくりをはじめ、近所の人たちの交流だったり、情報交換だったり、子どもたちの安全や防犯など色々な見守りも商店街がやっていたはず。子どもがいなくてもあるが、そういうのが今はもう全然なくなってしまったということかと思う。

高田の商店街はどちらかというと、商業専門というより、半商反農の家が多い。そういうこともあり、商店街としての発展性が見られないところもあるかと思う。

伊佐須美神社があり観光客も多いが、観光客が商店街に行って買い物をするかというと、おそらく買わない。要するに、伊佐須美神社と商店街の商品が繋がっていないと思う。昔は交通手段もあまりなかったので地域の人買い物に来ていたから成り立っていたが、今はどんどん外へ行ってしまふ。せっかく伊佐須美神社に来た人が買い物をしたくてもマッチしたものを売っているところがない。そこで商店街をそれにマッチしたものを売するような店に変えていくという場合に、実際もう商店街も力がない。受益者負担だということでは無理な話だと思われる。

町なりがそれなりの覚悟を持って、色んな部分で繋げた商店街づくりを、地域の文化なりそういうものに繋げたようなものを作っていくというのが大事かと思う。

意見（委員）

世代交流というのはすごくある地区だと思う。私たちは商店街に住んでいるが、子どもが帰ってくれば挨拶し、ひとり暮らしのお年寄りに声を掛け、包括センターの方と交流もするので、色々な人との関わりをたくさん持っている。

ただ、商店街とすると、売れる商品、売れない商品、売ってもいい商品、売ってはいけない商品というのが結構ある。そういう商店もあるということを知っていただきたい。

また、利用してる方がだんだん商店というのを必要としない時代になったと思う。

私の家族が薬剤師で、亡くなった時に薬局をやめようと思ったが、町の補助で人工肛門を取り扱ってるお店だったので、人工肛門を取り扱うところがなくなれば使っている方は会津若松市まで買い物に行かないといけなくなり、命に関わることだったので、続けることにした。一番は、震災で色々大きなお店が壊れて、流通が滞って、ないものがたくさんあった時に、高田の商店街は古い荒物屋さんがあったり、色々なものが揃った。ただ、災害がある時まで自分たちがお店をやっていたかということ、それだけの力はもうなくなっている。

地域の人やお店を利用する方が、本当にその商店街が必要だなと思ったら残ると思うし、必要がないと思ったら残らないと思う。

私は自分が商店街でお店をやっていてすごく楽しい。先日マルシェを開催したとき、普通は最低5名は来客があるのに、2日間で1名だった。周りは「あの店は賑やかだ」と思ったはずだが、私の店が賑やかだったのは買い物客ではなく交流をしに来る方。しかし、それも賑わいの一つである。ただ、自分の場合は夫が外で働き収入を持ってくるという利点もあり、お店のお金だけで生活しないといけないわけではない。

賑わいというのが、商店街にとって本当に何が幸せかを考えるほうがよい。人がたくさん来てというのが、本当にたくさんの人に来られたら、商店の人は対処できるのか。商店だけが賑わうのではなく、人が動いてるということが素敵なことで、それによって商店が潤っていけばいい。

商店街に5年後何店舗残るかを話したことがあるが、3店舗くらいしか残らない。それは後継者がいないということと、建物が古いが建て直せるわけではないこと。商店街としても色々考えて努力しているが、商店街で賑わいをもう一回というのは難しいと商店に住んでいて思う。

子ども、若い人、お年寄りのバランスがよくないと上手く回っていかないとと思う。

意見（委員）

賑わいは必要だと思う。賑わいを戻すという話だが、車社会であつたりネット社会であつたり、大分生活環境も変わっているので、もう一回戻すのではなく、賑わいを作るという方向で考えたほうがいいと思う。

賑わいを作るには、今までの施策と問題点について、それがどうだったのかを十分に検討して継続してやること。町の観光にしろ、色々な施策にしろ、10年20年のスパンで継続してやるというのが見えない。例えば夏井川の桜にしても、20年30年もかけてやっと花開いて町の観光になっているという話を聞く。宮川の千本桜が全国的に有名になると期待していたが、だんだんしぼんでくるような感じがしているので、そういうところを考えていく必要がある。

また、最終的には人がいないとどうしようもない。人を呼ぶためには、人が住みやすいことが一つだと思う。そのためには働くところがないと、子どもたちに戻ってこいとは言いがたい。

イベントも、5年6年で成果が出ないからではなく、20年30年のスパンで継続的に長い目で見ていかないと、人を集めるのは難しいと思う。

会津美里町は三町村合併で広いので、新鶴本郷高田の連携した観光も必要。単発では伊佐須美神社しかないという話もあったが、中田観音や法用寺の三重の塔などもある。向羽黒山は日本最大の山城だと言われるが、来た人は全然そのすごさがわからないので、町でお金を出して昔の向羽黒城の資料を基にした3Dゲームのような取組みを具体的にやっていけばいいと思う。

意見（委員）

そもそも、賑わい創出というのは、商店街に関してなのか、高田地区に関してなのか、会津美里町に関してなのかで変わってくると思う。

個人的には、移住するときに商店街を一回も見てもおらず、今でも会津美里町の高田の商店街にあまり行ったことがないが、自分の後に移住してきた人も大体そういう感じなので、移住の際に商店街が栄えているかどうかというのは、人によってはあまり関係ないかもしれない。

商店街というのが一つの場としての論点なのであれば、それをどう使っていくかという話であり、そこに賑わいを生み出す必要があるかというよりは、そこを上手く使うことで人を呼び込み、賑わいをもたらすか。できるだけ若めで、できるだけ子育て世代で、今後長期的に何らかの形で町に関わってくるか仕事を生み出すかという人たちを、どれだけ呼び込めるかという話だと思う。そう考えると、商店街は使いようのある場所だと思う。それには色々な形があると思うので、まずその整理をしたほうがいい。

そして、どの地区に関して話をしているのかというところ。現実的に考えると、そんなに大勢の人はこないと思う。皆がまちなかに移住して固まるような形になるかと言えば、そういう経済力が商店街中心地区にはおそらくないと思う。スーパーマーケットと車社会になった時点で小さ

い商店は基本的にものすごく厳しい戦いを強いられる世の中になった。安くないといけなが、安いと儲からない。商品の設計が外向けなのか内向けなのか、経済を回すという意味においてはここは相容れないところで、町内向けにビジネスをやる場合、尻すばみで終わってしまうことが現実的には考えられる。

町外の人を観光で呼ぶという話になると、私たちは観光コンテンツを上手くPRできていたりたくさんあるかと聞かれたときに、京都や仙台や会津若松など、もっとわかりやすくアクセスも良い場所と戦わないといけなくなってくる。そこと比べて観光で勝てるかと言うと、費用対効果が悪そうという感じがある。

個人的には、住んでいてすごくいいまちだと思う。友達や大学生が大体3日から2週間くらい毎回滞在していくが、すごく元気になって帰っていく。滞在中に農業と一緒にやったりするが、ちょっと暮らしてみるということをしたときによさがわかるまちだと思う。

そうすると、現実的なシナリオとしては、観光で来るというよりは、体験として暮らしてみるような仕掛けをどう作っていくか、それは何をしながら暮らすのか、誰をターゲットにするのかというところ。

都会でつまらない仕事をしている、いい就職先がない、全然ワクワクしない大企業に内定をもらっているという学生など、ものすごく疑問を持ってる若者がたくさんいて、そういう人たちが結構来る。皆その場でここに移住とはならないが、こんな場所があってこんな暮らしができるんだと、非常に印象に残る。そこから会社で2～3年働いて心身疲れ果てたときに、あの場所ですごく良い経験をしたことがあったと思い出し、その中の一部の人があるような流れが多い。都会の生活が今結構厳しくなっていて、あまり達成感が持てない仕事で世の中が溢れている中で、会津美里町が、暮らしてみる場所なのか、子どもだけでも夏休みに一時的に住ませてあげる地域留学のような制度に本腰を入れてやってみようなのか、そういう仕掛けを作り、その時に例えば商店街の空き家を活用して担当の人が一括して面倒を見るとか、そういう形はあると思う。あくまでも割と細々と始めてスケールも大きくならないが、来た人にはすごく濃い体験が提供できて、それを5年程度続けるとかなりコアなファンができるので、そのコアなファンを広げていくという方向性が、皆でやっていくとなれば現実的だと思う。

意見（委員）

今の意見にはすごく賛成するところが多い。

実際に移住される方も、賑わいや買い物がしたくて来るわけではなく静かなところに来たい。会津若松市に一回来たが、つまらないと言って郡部である会津美里町に来る。

観光が上手くないとか半農半商で商売上手ではないというのはこのまちのすごく良い個性だと思っていて、それを曲げてまで観光客を呼び込むとか無理にでも稼ごうというのは、おそらくすぐ破綻する。そもそもの気質で、半農半商だからゆったり鷹揚に構えていられる。今回のマルシェの時のように「いいよ土地貸すよ」というゆとりがあるように、高田エリアの豊かな土地と豊かな農があり食うもの困らずプラスアルファで何かやるというところは、このエリアの強み。

ただ、去年商店街の空き店舗調査をしたときに、使える空き店舗がほぼなかった。前のほうのお店は空いてるが後ろは住んでいるという現状があったので、丸々1店舗を借りるのは難しい。店舗をまちやどなどの拠点にしてエリアを歩いてもらうのは理想だが、今の状態だと間借りの方が現実的である。間借りでお店をスタートアップでやってみたり、用地とチャレンジしたい人を上手くかけ合わせてみるほうが、希望者はたくさんいると思う。

ぱっとせず、どんどんアピールしないところを強みにしたほうがいいと思っていて、鷹揚さ、誰かを受け入れる懐の深さもこの町の良いところだと思っているので、失くして欲しくない。

質問（委員）

高田地域ということなので、高田地域全体で考えるという方向でいいのか。

回答（事務局）

エリアはあくまで商店街など 401 沿いのところ。ただし、それを活かすには他の地域も、という波及はあると思う。

意見（委員）

会津高田駅から美里蔵まで歩いて調査したが結構な距離なのでその中でも絞ったほうがいい。

説明（事務局）

全体ではなく、公民館跡地も一つだが、横町通りや空き家のある呉服屋の通りがおそらくかつて一番繁栄したところだと思うので、そこをどう利用すればこの地域が良くなって、町全体に波及効果があるか。

質問（委員）

賑わい創出協議会とは、公民館跡地の有効活用を中心とした商店街づくりという感じだと思っていたのだが。それによって意見が全く変わって来るのでは。

回答（事務局）

公民館跡地の利用はサブテーマ。あくまでエリアがメインテーマ。

エリアで、公民館跡地をどのように使うかというのは推進力だと思ってもらえばよい。この地域に賑わいを、移住・定住移住までいかなくても、人が集まったりできるような施設をつくれれば、それが定住に繋がったりするのではないかと思う。そのためには、どのように空き家を活用するかなど、色々出てくると思う。

質問（委員）

人がある程度集まってきたら必要な商店街もできてくるのではないかという考えと、人が商店街に来ることによって定住者が増えるのではないかという考えのどちらが先かについては、人を先に集めるのではなくて、商店ありきで人が集まることをイメージしてということか。

回答（事務局）

商店なのか否かというのはあると思う。商店にこだわる必要はない。

意見（委員）

お金という意見があったが、お金で来た人はお金で出ていくので、あまりお金で競争しないほうがいいと思う。今、全国でお金を出している。お金で来る人は他にいい条件があれば移る。お金の切れ目が縁の切れ目なので、お金を湯水のように出してもいい投資にはならないと思う。

回答（事務局）

お金も、一つの方法ではあると思われる。

意見（委員）

一つの方法だが、人の質は落ちると思う。田舎に来ることができる人は、割と選ばれし人というか、ある程度スキルがあるとか、東京に住むよりもワンランク上の人でないとローカルな暮らしはできませんくらいの感覚でいたほうがいいと思う。「田舎に行ってやるんだから金を出せ」と下に見てくる人を相手にしても仕方がないような気がする。

そのため、そのエリアの使えるポイントを提示してあげる必要がある。例えば、誰かと誰かがコラボレーションして、水曜日はこの商店でチャレンジショップをやっているとか、他所から来る人を受け入れる余地を提示するだけでも違ってくると思う。お店を持ちたいが持てない人もいるし、起業したい人は毎年たくさんいる。ただ、全員が店舗を持てるかというとおそらく持てないし、持てても潰れていくという現実もあるので、初期投資コストを抑えて、自己実現なり自分の事業を始めるための余地を与えてあげるだけでもすごく優しいエリアだと思う。

質問（委員）

会津高田駅前から3km、401沿いの商店街を、町はどのように思っているか。

どういうところだと動かせるのか、町として考えはあるか。

回答（事務局）

後継者がいなかったり、次へ継承できなかったりというがあるので、住んでいる人が文化的な活動ができるような施設は最低限残さないと、人はどんどん流出していくばかりだと思う。

賑わいというのは、祭りなど、人がそこにいてよかったという思い出なども一つの付加価値になると思う。祭りも人がいないとできないので、人が残り賑わいができるように、あのエリアを何とかしたいとは思っている。

お金は無尽蔵ではないので、どこに重点的に絞ってやっていくか、どのような使い方をすれば一番効果的かというのを、もう少し皆さんにお聞きしたい。

意見（委員）

先ほど伊佐須美神社しかないと言ったのは、車で移動するのであれば会津美里町も色々あるが、歩いて回れる場所がそこしかないということだが、何もなくても、そこにしかないものがあれば皆見に行く。私の商品も店でしか買えないので、直接受け取りたいという方は北海道から沖縄、どこからでも来てくれる。

そこにしかないもの、食べられないものがあるといいと思う。

意見（委員）

資料の第1回目のアンケートの質問を見ると、町がどういうことを皆に期待してるのかというのが何となくわかる。

私がどういう賑わいが必要と感じるかというと、自分や自分の周りにとって、将来こうあって欲しいと思うもの、なくなったら困るものが第一にあるべきと思っている。必要とされれば残るので、まず我々が必要とするものが何なのかを考えること。さらに、こういうお店ができれば利用したいとか、外から遊びに来た人に紹介したい、連れて行きたいような店ができれば、自然と賑わってくると思う。

また、賑わいというのは、見える賑わいと見えない賑わいがあると思う。人がたくさんいる賑わいもあるし、そこの店の商品がネット販売ですごく売れてるという賑わいもあると思うので、目に見える賑わいを求めなくても、他の人が欲しがるといような賑わいがあってもいいと思う。

説明（事務局）

アンケートの話が出たが、資料の内容で町民アンケートを実施する予定である。内容について意見があればお示しいただきたい。

意見（委員）

商店街の中に、昼の商店街・夜の商店街があってもいいと思う。夜の商店街を想定したときに、騒音に関する項目も入れてもらいたい。

意見（委員）

回答者の年代を追加してほしい。

質問（委員）

賑わいの定義というのがわからない状態だが、お祭りのように人が来る状態なのか、観光客が来る状態なのか、人が住める状態なのか、どんなイメージで賑わいを求めているかというのは、回答者に任せるのか。

回答（事務局）

そこはまっさらな状態を考えている。

質問（委員長）

アンケートの対象年齢は？

回答（事務局）

無作為抽出の 500 人で、年齢は、10 代から 60 代くらいまでを想定している。

意見（委員長）

10 代の場合、小学生などは、回答をするときに悩んで回答できないところがあると思われる。小学生が考える賑わいとは意味が違うと思うので、そういう部分を検討していただきたい。

回答（事務局）

抽出の仕方をもう少し考える。

意見（委員）

高田地域の中心市街地というのが、どこを指すのかを具体的に書く必要がある。

回答（事務局）

アンケートに地図を添えて送るようにする。

意見（委員）

401 沿いを中心と思っているかは、おそらく人による。世代によっては、高田中学校前の 1 号線が中心市街地だと思っているし、安田のリオンドールの辺りが中心だと思う人もいるので、具体的なエリアの指示をしてもいいと思う。

また、「すべきだと思いますか」という書き方について、「べき」という表現は義務感が出てくるので、個人の意見の反映をするのであれば使わないほうがいいと思う。

意見（委員）

賑わいという言葉を使わなくていいと思う。

単純に中心地についてどうなって欲しいかをオープンに聞く。おそらくエリアを指定しなくても中心地にどうあって欲しいのかと聞けばそれらしい答えが出てくるので、商店街の具体的にどこからどこまでかというのがある程度関係なくなるところもあると思う。

第3問の商業的な賑わいや飲食店を中心とした賑わいというのはやはり曖昧になるので、飲食店が増えるとか、飲食店が買い物客で溢れる、でもいいと思う。

賑わいという言葉を使うことによって不自然になっている部分があると思う。それが賑わいかどうかは町側で判断するという形にして、もう少しシンプルに聞いてもいいと思う。

⑥ 1回目のアンケートについて 〆切

⑦ にぎわい創出のための旧高田公民館跡地利用

説明（事務局）

意見を踏まえ事務局で考えて、アンケートを実施させていただく。

旧高田公民館跡地利用の話については、今日はやらず、次回に触れることとする。

説明（委員長）

アンケートについては、基本的な考え方はこの通りだが、今ほどの色々な指摘も踏まえ、調査を行うということでよろしいか。

意見（委員）

（全員了）

⑧ その他 次回

説明（事務局）

次回は、アンケートを実施・集計した上で、8月31日に開催予定。

説明（委員長）

これまでの内容を踏まえ、ご意見をいただければありがたい。

意見（委員）

皆さんのご意見を聞かせていただき、会津美里愛が非常に強いと考えている。

私は会津若松に住んでおり、会津若松市という単位で見たときも、会津若松市も同じような問題を抱えている。七日町通りは、統一したコンセプトのもとで商店街を再建し鶴ヶ城に至る道を作ったというようなところで、現在はどちらかというと観光の方にシフトしている反面、大町通りは人の通りが減少してきていたりということで、今そこでも協議会形成されていて、イベントやマルシェを開催している。そうなった時に、私が驚いているのは住民の方がそういう催し物があるとやっぱり出てくるんだなというところ。本当に地域のことを愛しているという印象は受けている。

今日、色々と賑わいとは何かという意見があったが、それを徐々に集約していただきたい。

また、私の場合は学生とよく接しているが、住んでるのは会津美里町だが会津若松市の学校に通っていたり、逆もあるので、そのような交流が盛んな地域なのかと思っている。そういうところをうまく活用できると、一つの視点になると思っている。

意見（アドバイザー）

皆さんの考えを一人限られた時間しか聞けなかったのが非常に残念だが、私も、賑わいという言葉の定義から入らないとどうなるのかなと思いながら拝聴させていただいた。

色んな専門家の方がいらっしゃるの、定義づけの話や、時間的空間、地域的空間というものをマトリックスで考えながら発言されていて、良い意見が出てよかったと思う。

聞いていて思ったのは、賑わいという行政的なタイトルでやってしまったが、例えば残したい「もの」や「こと」のようなニュアンスでやっていくと、ワークショップのような感じでいっぱい言葉が出てきて、言葉の中から集約をして、どれについて議論をしようかというふうにする、もっと面白い形に行くという方法もあるのかな、と。

会津美里町に限らず、観光で賑わいを作ろうというのは今顕著に出てくる方向性で、観光をやって、交流人口や観光人口を増やして、経済ベースで地域を元気にしようという論調で検討される自治体もあるが、逆に、自分たちの生活とは何かと考えたときに、もてなすのが下手だとか、もてなすのが嫌だとか、生活の中でこれがいいって言ってくれた人が移住してくれればいい。

沖縄県は割と観光で稼いでるところだが、すぐ隣の奄美大島は、観光で稼いでるというより生活そのものを見せて、それがよければ来れば、というスタンス。どちらかと言うと若者の移住者が多いが、移住と言えるかどうかというのは、私がずっとここ10年ぐらい見ていると、止まり木的な住み方をしてる人がいっぱい来てることで循環している。私は美里に来て、その後者の感覚をすごく感じている。

また第2回目から、今の議論やアンケートをもとに積極的なご意見いただきながら、会議を継続していくと思うが、よろしくお願いいたします。

説明（委員長）

お二人のご意見を参考に、次回、アンケートの結果を踏まえて、今後も色々な意見を出していただければありがたい。

6. 閉会